

幸房小学校 道徳授業の進め方

幸房小学校で今後目指していく道徳授業の指導法は、研修部会で検討していくこととして、ここでは授業を行う際のポイントをまとめました。年次の浅い先生や初任者の先生は参考にさせていただけると幸いです。

1. 他者と関わりあって、自分の考えを広めていける授業の充実を目指して！

研究主題には、【多面的・多角的な視点で物事をとらえ】とありますが、これは様々な意見に触れることを表しています！児童同士の関わりを増やしたり、発言を学級全体に広げたり、くれぐれも教師と児童の1対1の対話にならないように心がけていきましょう。

2. 授業づくりのポイント

ポイント① この教材で何を伝えたいのか、『ねらい』を明確にする。

授業を考える上で大切なことは、**この教材で児童に何を考えさせたいのかを明確にすること**です。教材にはそれぞれに内容項目が定められており、内容項目に即した『ねらい』を考えていくこととなります。

その基本となるのは、【学習指導要領】です。それぞれの項目で指導すべき内容を確認し、課題を設定しましょう。

(例) 1年生の「はしの上のおおかみ」なら 内容項目はB【親切、思いやり】が設定されている。

【学習指導要領の文言と各発達段階の様子】

小学校1学年及び2学年の指導の観点は、「身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること。」である。【中略】望ましい人間関係を構築するためには、互いが相手に対して思いやりの心を持って接するようにすることが不可欠である。思いやりとは、相手の気持ちや立場を自分のことに置き換えて推し量り、相手に対してよかれと思う気持ちを相手に向けることである。そのためには、相手の存在を受け入れ、相手のよさを見いだそうとする姿勢が求められる。【中略】指導に当たっては、幼い人や高齢者、友達など身近にいる様々な人々とのふれあいの中で、相手のことを考え、優しく接することができるようになることが求められる。また、その結果として相手の喜びを自分の喜びとして受け入れられるようにし、具体的に親切な行動ができるようにすることが大切である。親切にされたりしたりすることで自分も相手も気持ちがよいと言うことに気付かせたい。



【上記を踏まえてのねらい】


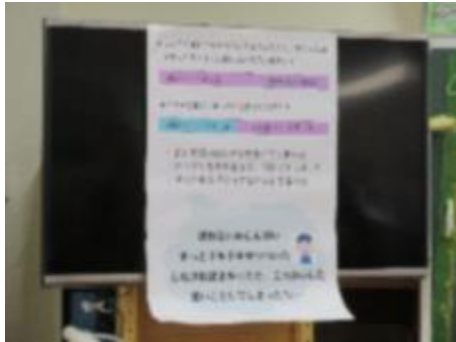


くまとの出会いをきっかけにおおかみの行動が変わったのはなぜか考える学習を通して、親切にされたときやしたときの気持ちよさを理解し、誰に対しても思いやりの心を持って親切に接しようとする心情を育てる。

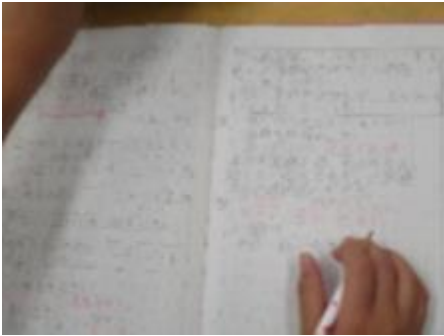

ポイント② ねらいを具現化するための主発問を考える。

ねらいに迫るため、中心となる主発問を考えて、そこから逆算していくことが、授業づくりのポイントになります。またねらいに即した課題を提示することで、この1時間の中で児童が何を考えていくのかイメージしやすくなります。

最後に、1時間で学んだことのふりかえりの時間の確保【自分の実生活にどのように生かしていくか】を5～10分程度取っていただければと思います。

3. 45分間の授業の進め方 

時間	授業の流れ	留意事項
3分	<p style="text-align: center;">導入部で求められるのは、ねらいとする価値への方向付け、教材の内容に関心を持たせることです。授業のねらいを児童に分かりやすく言い換えたものが課題と考えてもいいのかもしれませんが。</p> <p>導入</p>  <p style="text-align: center;">課題の提示</p>	<p>○アンケートの結果を伝えたり、言葉の意味を投げかけたり、写真や映像の提示などたくさんの工夫ができる。</p>  <p>○導入で取り扱った内容から、課題につなげていく。 例：嘘やごまかしをしてしまった時の気持ちを提示 → ①正直に言うことの良さとは何だろう</p> <p>○課題は必ず導入で提示しなくてもよい。</p>
5分	<p>展開</p> <p>条件・状況の提示</p> <p>読み聞かせ</p> 	<p>○教材の登場人物の関係性や、児童が思考するために押さえておきたい事項を伝える。</p> <p>○教師は役者！抑揚や登場人物の心情をいとしながら読み聞かせを行う。 紙芝居や、ペープサートの活用も可。</p> 

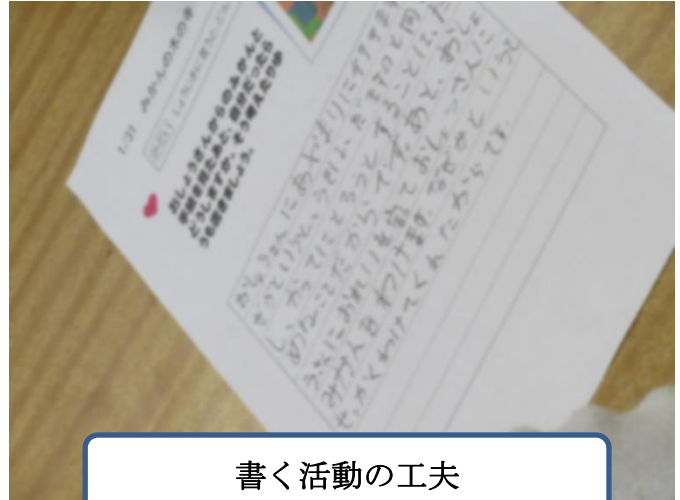
<p>3 0 分</p>	<p style="text-align: center;">読み聞かせを終えたら、いよいよねらいにせまるための発問を 組み立てていくことになります。発問の数に決まりはありませんが、 主発問に多くの時間を割くことを考えると、全部で2つ～3つが妥当です。</p> <p>発問</p> <p>例 はしの上のおおかみ</p> <p>(1) うさぎを追い返して「えへん、へん。」と言ったのは、どんな気持ちからだろう。</p> <p>(2) くまに親切にされたおおかみは、どんな気持ちでくまの後ろ姿を見ていたのだろう。</p> <p>(3) おおかみは、どうしてうさぎに道を譲ることができたのだろう。 【主発問】</p>	<p>○発問にて、児童の考えが浅く、意図した答えが引き出せなかった場合には、補助発問を用意しておくことも大切となる。 例：補 どうしておおかみはうさぎを追い返したのだろう。</p> <p>※発問の受け止め方ですが、『道徳には答えはない』とよく言われます。それは児童が自分自身の中でしっかり考えた結果であれば、それがその子にとっての納得した解答になるからです。ですから基本的に児童の発言は肯定的に受け止めることが必要になります。教師の発言に対してのストライクゾーンは広くないといけません。ただし、真剣に考えていないふざけた発言や、状況設定・読み聞かせの誤読が見られた場合は訂正する事も求められます。</p>
<p>5 分</p>	<p>ふりかえり</p>  	<p>○1時間の授業の中で学んだことを自分の実生活にどう結び付けていきたいか、ふりかえりを書く。</p> <p>※実生活に結び付けるふりかえりは、低学年だと非常に困難なものです。登場人物の気持ちになりきって書いていても、自分が共感できていると考えることができるのでよいものとしします。</p> <p>※中学年以上だと、主発問はお話から離れた独自の発問にすることもあります。主発問で実生活にリンクして考えることができるので、振り返りは他者と交流して深まった意見を書くことができるかもしれません。</p> <p>例 銀のしょく台</p> <p>(1) 銀のしょく台を盗んだジャンを、自分だったら許せるだろうか。</p> <p>(2) ミリエル神父はなぜジャンを許せたのだろうか。</p> <p>・課題の提示 「許す」とはどんなことなんだろう</p> <p>(3) 課題について考える 【主発問】</p>
<p>2 分</p>	<p>終末 説話</p>	<p>○教師のねらいにまつわる説話を行ったり、写真や映像資料を視聴したり、詩やことわざといった関連する先人の教えを示すことで、学んだことを深く心にとどめる時間とする。ふりかえりの発表を行わせてもよい。</p>

○主発問での指導方法の工夫

ねらいに迫るための主発問においては、様々な工夫を取り入れながら児童の多角的・多面的な視点で考えさせることが必要となってきます。教材によって、何が適切かは先生方が教材研究を行っていく中で見極めていくことが求められます。



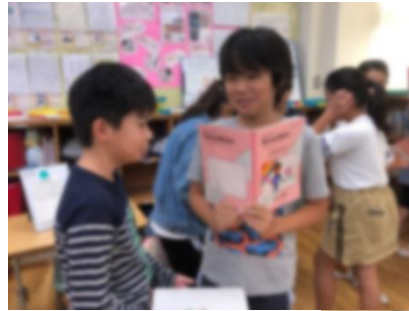
役割演技等の表現活動の工夫



書く活動の工夫



対比的・構造的な板書の工夫



話し合い・他者との関わり合いの工夫

○切り返しに関して

授業の中で、考えのみを単的に発言した児童や、「なんでこう考えたんだろう？」と教師が気になった発言が道徳科の中ではよく見受けられます。その際は、『なんでそう考えたの？』など、教師がその子の発言を聞き返すこと「切り返し」が求められます。ねらいに迫る発言であった場合は、学級全体に意見を広げることができます。切り返しを多用してしまうと、時間も大きくずれてしまうので、主発問を中心に必要であれば行っていくことも求められます。